

本研究会は2014年、当研究所に寄贈された羽田勇人氏の小絵馬コレクション約2,000点の整理、資料化に当たって発足しました。本コレクションは小絵馬の学術的な重要性を『絵馬』（法政大学出版局 1974）で体系的に示した岩井宏實氏の指導を受けつつ、自ら現地に出向いて収集された貴重な資料性を有します。伊場遺跡の献馬体はじめ、神と人をつなぐ馬の持つ象徴性がさまざま現れる中、「小絵馬」はそれぞれの時代や地域の庶民の願いを具体的に示す常民文化資料として重要です。

この小絵馬を研究素材にして新たな視角から捉えようと研究会が企画され、2015年に準備会、第1回研究会が開催されました。以降、研究会は実務面と研究方面の二本立てで行うことにし、2018年度は2名の講師を迎えて開催されました。



写真1 岩崎真幸氏



写真2 鈴木通大氏

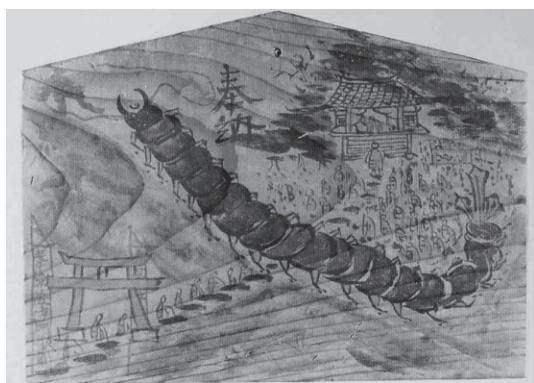


写真3 賑わう祭りの様子を描いた絵馬（宮城県角田市福応寺毘沙門堂）



写真4 「銀杏に参拝する母子図」（東京都荒川区南千住：素盞鳴尊神社）。子宝・安産・子育てに御利益があるといわれ、近年、流行っている。7年間掛けられている。

2018年度 絵馬研究会

回	テーマ	講師	日時
第3回	ムカデの呪力 ——宮城県角田市福応寺毘沙門堂奉納絵馬をめぐって——	岩崎真幸 みちのく民俗文化研究所 代表	2019年1月28日（月） 13:00～16:00
	「現代小絵馬」にみる祈願の諸相 ——現代社会の絵馬を考える——	鈴木通大 客員研究員	